

出前講座

「那賀川流域の概要と水防災」

那賀川河川事務所は、11月19日(日)に阿南市羽ノ浦町の古毛地区自主防災会のお招きにより、羽ノ浦町公民館古毛分館にて出前講座を行いました。



那賀川流域の概要

那賀川は、徳島県南部に位置し、その源を徳島県那賀郡の刺山山系ジロウキウ(標高1929m)にあり、徳島、高知両県の両端山地の裏腹に沿って流下した後、東に流れ、阿南市羽ノ浦、赤松町津の交点を合わせ、那賀川平野に出て、浜川那賀川を分岐し紀伊水道に注ぐ、総延長125km、流域面積874km²の一般河川である。また、支川桑野川は、浜川那賀川に合流する幹川距離約7kmの一般河川である。



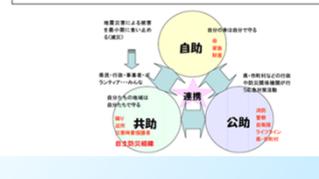
過去の洪水と被害状況

降雨量が多くなる条件として、流域に台風の影響、或しくは西雨に遭遇する機会が多い。過去にも数回大規模な洪水が発生し、被害も甚大であった。平成27年台風11号発生時の最大水位は、平成27年台風11号発生時の最大水位に匹敵する洪水が発生している。

講座では、那賀川流域と長安口ダムの概要のほか、那賀川における堤防決壊リスクや、水害を最小限に抑えるための事前の備えと避難の重要性などについて説明しました。

防災の基本

- 災害による被害を最小限に抑える(減災)ためには「自助」「共助」「公助」の連携が重要です。
 - ◎『自助』…自分の命は自分で守ること
 - ◎『共助』…隣近所が助けてくれる地域の安全を守る
 - ◎『公助』…県・市町村などの行政や防災関係機関による救助
- ◆防災対策には、災害発生を予見する「予防対策」、災害発生直後の「直前・直中対策」という二段階があり、いずれも「公助」の二つの方が連携することが必要です。



早め早めの避難を行うために【内閣府の防災情報ページより】

- ステップ①：自宅や学校・職場には、どのような危険があるのか確認
 - お住まいの市町村が作成しているハザードマップや避難経路マップを参照し、居住地周辺の危険箇所や避難経路を確認する。
 - お住まいの市町村が作成しているハザードマップや避難経路マップを参照し、居住地周辺の危険箇所や避難経路を確認する。
- ステップ②：お住まいの市町村から発令される避難情報について確認
 - お住まいの市町村から発令される避難情報(手動)や避難情報(自動)を確認し、避難情報に基づいて避難行動をとる。
 - お住まいの市町村から発令される避難情報(手動)や避難情報(自動)を確認し、避難情報に基づいて避難行動をとる。
- ステップ③：いざという時に備えて考えておきましょう。
 - 事前に、以下のような防災対策をしておくことが、緊急時に対応に役立ちます。
 - 事前に、以下のような防災対策をしておくことが、緊急時に対応に役立ちます。

那賀川防災情報メール配信サービス

那賀川防災情報メール配信サービスをご活用下さい。

防災情報メール配信サービスとは、那賀川・桑野川の水位情報や長安口ダムの放水量をメールでお知らせするサービスです。

防災情報メール配信サービスとは、那賀川・桑野川の水位情報や長安口ダムの放水量をメールでお知らせするサービスです。

那賀川・桑野川の水位情報や長安口ダムの放水量をメールでお知らせします。

那賀川防災情報メール配信サービス <http://nakagawa-milit.go.jp/bosai/>

講座の説明後には、地震が発生した場合に古毛地区を含む周辺の堤防が受ける影響や、堤防の耐震性に関する質問、また、加茂地区の築堤完了後の古毛地区の水位上昇に関する質問など、活発な意見交換が行われました。

那賀川河川事務所では、引き続き那賀川・桑野川における減災に関する取り組みを推進するとともに、社会全体で平常時から洪水に備える「水防災意識社会」の再構築を行っていきます。